

# 防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会  
会報 第96号(2015.3.1)  
事務局川西地区自主防災会

## 私にできることを

小野山淳鷺（高松妙泉寺僧侶／丸亀本門寺住職）

2011年3月11日——

歴史に明記される日になりました。同時に教訓や指針として永遠に語り継がれるものであってほしいと心から願います。

### ・東日本大震災の復興支援

その日、私は京都での所用を終え、車を走らせ帰路を急いでいました。現職の東京都知事が続投を期して選挙に出馬する意向を表明し、その中で、災害等の緊急対応には年齢や体力の面から不安を覚えるが、という趣旨の発言があったと記憶しています。まさかその数時間後に、東京を含めた東日本の太平洋沿岸一体があのようなふうになることは夢想だにもしませんでした。

ただ、徳島に向かう大鳴門橋で見た不気味な鉛色の海は、今も目に焼き付いています。その後、車中で地震速報と津波警報に接しました。我が家に帰り着き、テレビに映し出される津波の様子に目を疑い啞然とし、何も手につきません。それでも、何か自分にできることはないものかと、仏前に祈りを捧げ、SNSで情報を発信したりしていました。

時が経つにつれて被災の状況や人びとのニーズが明らかになるものの、これと言って何もできない自分にもどかしさを感じながら、春のお彼岸を終えました。

ようやく被災地・東北に赴ける環境が整ったのは3月21日。自家用車にありったけの支援物資を積み込み、緊急車輛の指定を受け、遅れ馳せながら仲間の僧侶とともに一路仙台をめざし地元香川を飛び出しました。

### ・高松妙泉寺と丸亀本門寺

私は、丸亀市十番丁にある「本門寺」の住職を務める傍ら、その親寺である「妙泉寺」（高松市栗林町）でも僧侶として活動しています。私どもの宗派は「本門佛立宗」（ほんもんぶつりゅうしゅう）といい、法華経・南無妙法蓮華経の教えに基づく信仰です。歴史的には鎌倉時代の日蓮に端を発しますが、宗派としては江戸幕末の頃、京都で長松清風という僧侶によって起こされました。現在、日本全国そしてアジア・北米・南米・欧州に伝播し、およそ400の寺院を有しています。

仏教とは、葬儀や回向という死者のためばかりでなく、むしろ今を生きる人のためにこそあるものであり、僧侶も信徒も、悩み苦しむ人を信仰の力で救う“菩薩行”に取り組んでいます。

この理念は災害等の発生時にも活かされ、これまで国内外を問わず様々な活動をおこないます。今からちょうど20年前の阪神淡路大震災においても、妙泉寺と本門寺は北淡町での炊き出しを中心に組み合わせていただきました。



#### ・復興支援の活動として

そうした平生の活動は東日本大震災の折りにも活かされ、震災発生から10日後には、全国のお寺を通じてたくさんの物資が集められ、多くの人によって救援活動が進められていました。私たちは仙台市内のお寺を拠点とし、全国からの人や物資を集め、太平洋沿岸部で被災した各地の状況に応じて物資を運搬していました。その際も各地域のお寺を第二の拠点として、周辺の住宅や避難所等に物資をお届けしました。また、福島における原発事故によって水道水が使えなくなった方には、いわき市内のお寺を拠点に、ペットボトルのミネラルウォーターをお届けしました。このような日頃から構築されている全国のお寺のネットワークを活用した物資運搬のほか、被災して亡くなられた方のお弔いを自宅跡地や遺体安置所でさせていただきます。

#### ・いつでも、どこでも、誰でも

ともかく、被災が広範に及び、現場の状況も時々刻々と変化する中で、被災された方のニーズに合致した適切な支援を心がけました。また、地元香川から被災地支援のために東北を訪れるには時間も費用も体力も必要で、事実として誰もが参加できるわけではありません。しかし、この度の甚大に過ぎる被災からの復興には、より多くの力が必要です。故に、いつでも、どこでも、誰でも、参加できる支援の方法を見つけてお示ししなければなりませんでした。



この条件に合致する新たな支援策として「物産展」に取り組み始めたのは、震災発生からおおよそ1年半が経過した頃でした。東北の復興に向けて努力を重ねる人たちを応援すべく、経済活動の一環として商品の販売ルートをつくろうと考えたのです。おかげさまで多大なご協力により物産展はいつも盛況で、地元香川の方には東北の新たな良さに触れていただき、一定の継続性も確保することができました。

## ・チャリティーシンポジウム

さらに、地元香川のみなさんに復興支援への参加を呼びかけるため、被災地の現状や被災された方の声をより詳しく伝えることも重要でした。そんなことから香川でのチャリティーイベント開催を計画しました。

県内を拠点として復興支援に取り組む諸団体や被災地で復興に向けた活動を展開する諸団体など多くのお力添えをいただき、実行委員会を発足。スタッフはすべてボランティアとし、開催資金はすべてカンパで賄いました。



実は、かがわ自主ぼう連絡協議会様とのご縁はこれが始まりで、岩崎会長様はじめ皆様には多大なご尽力をいただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。

おかげさまで、2013年11月3日、かがわ国際会議場において遠く被災地からパネリストを招聘して「東日本大震災復興支援チャリティーシンポジウム」を開催。日頃は新聞やテレビ等のメディアを通じて見聞きする被災地の状況を、直接聞かせていただく機会を設けたところ、およそ450名のご参加をいただき、一定の成果を見ることができました。

その際おこなったアンケートでは「継続開催」を求める声が圧倒的に多く、これにお応えすべく、早速計画策定に動き出しました。また、シンポジウム開催に至った経緯は、県外の他の地域でも同じ現状にあることから、同様のチャリティーイベント開催が計画され、微力ながら協力させていただいております。

## ・防災と減災の対策も復興支援！？

さらに、復興応援に取り組む中で、被災地において貴重な声に触れました。

「地震や津波という自然災害の発生は止めることができないが、被害を最小限に止めることはできる。震災で多くの方が犠牲になるという辛く悲しいことは、誰にも経験してほしくないし、そんなニュースはもう二度と見たくも聞きたくもない。だから東北の復興を支援してくれるのはありがたいが、それと同じくらい、地元の防災・減災に取り組んでほしい」

私にとって、とても衝撃的な言葉で、目から鱗が落ちる思いを覚えました。被災された方のニーズに適した支援活動の一つに、地元香川での防災活動が含まれるのです。

私は早速、地元の防災に取り組むため、これも東北の被災者に学ばない手はないと考え、教えを請いました。その中で、飲食物や生活用品の備蓄、避難経路の確認と訓練のほか、地域コミュニティの形成の重要性が指摘されました。

## ・お寺としての防災・減災対策

お寺とは、祈りや弔いの場であると同時に、苦悩から救われる場であり、行き方を学ぶ場であり、人が集まる場です。この特性を防災に活かそうと考えました。東北でもそうであったように、いくら逼迫した状況であっても、初めて訪れる場所に人は不安を抱き、初対面の人にはなかなか率直になれないものです。したがって、より多くの方に“お寺という場所”を知っていただき、集まる人が相互に面識を持っているよう、そうした機会を設けようと考えたのです。



2014年7月20日、このお寺を“場（ステーション）”にするイベント、「寺ステーション」を開始しました。第1回のゲストとして岩崎会長様にお越しいただき、「震災に学ぶ」をテーマに講演会を催したところ、100名を超える参加がありました。併せて、恒例の物産展「東北応援門前市」、さらに軽食をとりながらコミュニケーションを図る「カフェs（テラス）」を開催しました。

この取り組みは、第2回・アフリカンコンサート（出演：B.B.モフラン、ほか）、第3回・落語会（出演：林家染弥＝現・3代目林家菊丸）と継続しています。

## ・チャリティーステージ

昨年（2014年）12月6日には、2013年11月に開催したシンポジウムの第2弾として、「東日本大震災復興チャリティーステージ」をサンポート高松・大ホールにて開催。“東北”や“復興”、“防災”の意識が否応なく低下する現状に即し、老若男女がこぞって参加できるイベントをめざし、東北岩手出身の作家・宮沢賢治をテーマに、作品の朗読や楽器演奏、合唱などを織り交ぜたステージを企画しました。



運営は前回と同様に実行委員会を組織しましたが、今回は、復興支援に取り組む団体はもとより、福祉や教育に携わる団体にもご協力いただき、幅広い連携を図ることができました。およそ100名のボランティア出演、200名のボランティアスタッフ、多額の資金カンパによって運営され、およそ800名の参加をいただき、盛大に開催することができました。

## ・防災・減災は諸問題解決の道

東日本大震災で被災された方が仰るとおり、自然災害の発生を止めることはできません。それ故、天地自然の中に生きる私たちにとって防災や減災の取り組みは宿命です。また、自然災害の規模に上限を設けることができない以上、「これで大丈夫」という際限のない、永遠の課題でもあります。

すなわち、この社会に生きる私たち一人ひとりが、常に我が事として意識し、過去の事例から真摯に学び、具体的に取り組んでいくことが、何よりの対策ではないかと思えます。

さらに、そうした取り組みは、人と人の有機的なつながりを取り戻し、防犯対策にもなり、やがて昨今顕在化している個人・家庭・社会が抱える諸問題の解決あるいはその糸口として、必ずや貢献するものと確信しています。

その意味において、常々防災や減災に取り組まれるかがわ自主ぼう連絡協議会様、及び各自主防災組織の皆様には、その社会的役割や意義の尊さに心から敬意を表します。

私も仏教やお寺としても、そのことを念頭に置き、社会と地域に貢献できるよう、今後も努力を重ねてまいります。とは申せ、これまでの歩みを顧みれば、何もかも皆様のお導きとお力添えの賜物で、やはりこれからもそれは変わらないように思います。皆様に感謝申しあげつつ、引き続きのご指導をお願いいたします。

最後に、南アメリカの先住民に伝わるお話をご紹介します。

森が燃えていました

森の生きものたちは われ先にと 逃げて いました

でもクリキンディという名の ハチドリだけは いったりきたり

口ばしで水のしずくを一滴ずつ運んでは 火の上に落としていきます

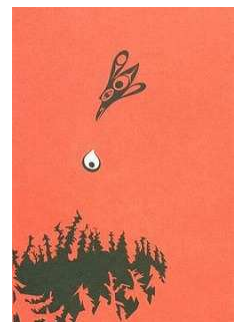
動物たちがそれを見て

「そんなことをして いったい何になるんだ」といって笑います

クリキンディは こう答えました

「私は、私にできることをしているだけ」

『ハチドリのひとしずく』（辻信一監修／光文社）



みんなの暮らす森が燃える中、ただ自分にできることに取り組むハチドリ、クリキンディ。

その姿は、僅かな力しか持たない私たちに大きな勇気と希望を与えてくれます。

防災・減災をはじめ日々のさまざまな活動の中で、もしかしたら、「そんなことをしていったい何になるんだ」という声が聞こえるかもしれません。そんなときは、「私は私にできることをしているだけ」というクリキンディの声に耳を澄ましてください。

そして、皆様の中に生きるクリキンディを見つけ、育てていただきたいと願います。

合 掌

# 事務局だより

平成27年 3月

かがわ自主ぼうの事務局を担当している「川西地区自主防災会」最近の活動を紹介します。

## 1. 防災何でも相談 第2弾 “我が街を歩こう”

かがわ自主ぼう初の試みであったさぬき市で実施した「何でも相談コーナー」をきっかけに派生した、地域皆様参加による“我が街を歩こう”という企画、まずは鴨庄長浜自治会のまち歩きをしました。

長浜自治会の背後にあります山と谷脇をウォッチング。この山の中にため池が4個あるという地元の長老さんに案内されて、ケモノ道のような悪路を息を切らしながら沢づたいに登っていくと、途中に10トンを超えるような大きな石が何個もあって、広島市の集中豪雨を思いおこしながらの山中ウォッチングとなりました。登り始めて約20分位で最初の池にたどりつきました。ここから上部に3つの池があるということで、最後まで頑張って登りましたが、この池を作られた先人の皆様に敬意を表するとともに水に対する思いの強さに感服した次第です。



さてこの沢づたいに作られたため池4個、広島市のような雨量になりますと、一気に



土石流となって10トンを超える大岩石とともに崩落、山裾の集落をおそうこととなります。

関係方面にお願いしてアクション対策を講じることが必要であるということで整理をはかりました。その後、海岸線を自治会長殿のご案内でまち歩き、海拔2.5Mの堤防道路とそれより低地にある家屋や畑などはレベル2といわれる巨大地震が発生すると、津波をも

ろにかぶることになり、甚大な被害が想定されます。又、地域の拠り所となる長浜自治会の自治会館も海拔2.5Mのため、一時避難所は海拔10Mを超える県道があるので問題なしではありますが、住宅被災後、数日間滞在する避難場所を選定しておく必要があります、民間ビルを活用した取組みも考慮した検討がいきます。



◎ 苦張東、苦張西自治会のまちなかウォッチングは次号にて紹介とします。

## 2. かがわ自主ぼうの副会長であった川口秀明氏が永眠されました

昨年5月から療養中でありました川口秀明氏が本年2月4日にご逝去されました。

川口さんとは家内を通じて10年前から親しくさせていただき、早い段階から「かがわ自主ぼう」に参画いただき、訓練や研修において大変お世話になった次第です。豪快な人柄と細かいところまでお気づきになるなど人情あふれた人であり、2番丁界隈の小学生から親しまれた見守りおじさんでもありました。ご冥福をお祈りします。…合掌…。



### 編集後記

今月の防災減災の輪は、丸亀本門寺ご住職小野山様に原稿をお寄せいただきました。ありがとうございました。

## 速報!!

かがわ自主ぼう連絡協議会に「ジャパン・レジリエンス・アワード（強靱化大賞）2015」上位入賞のお知らせが来ました！

全国約200件のエントリーの中、一次審査（書類審査）と最終審査（審査委員審査）の結果、上位入賞が決定。さて何賞をいただけるのか？

3月15日（日）に仙台で、グランプリ、金賞、特別顧問賞・特別賞、最優秀賞が、決まります。乞うご期待